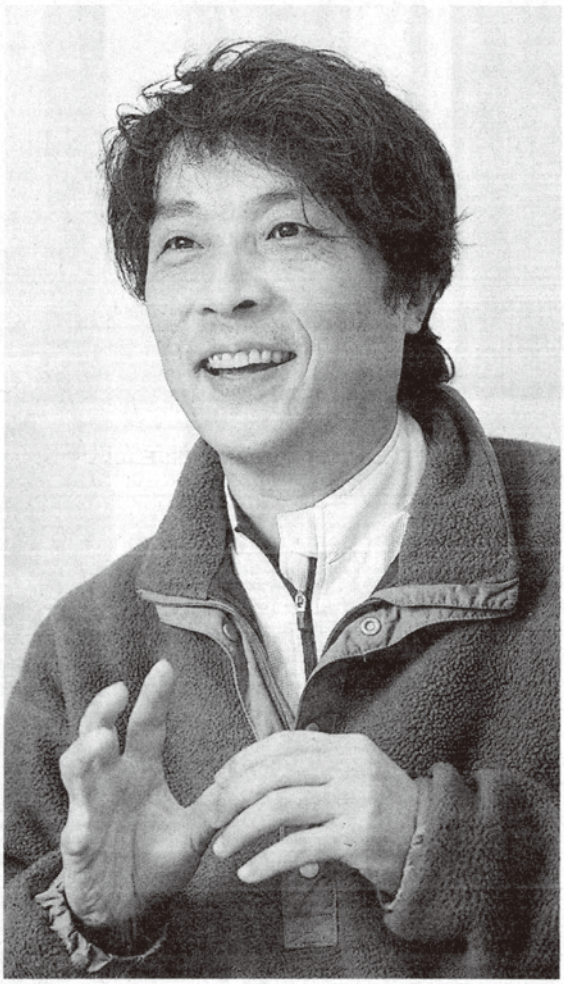
文・写真
池田進一

東北朝市紀行

『朝日新聞』12月21日付読書面「著者に会いたい」

■東北朝市紀行

池田 進一さん(50)



消さずに残して地道に伝えて

20年間、秋田県を中心に冬の東北の朝市に通い、写真を撮り続けてきた。観光客相手ではなく、「市日」と呼ばれ月に決まった日付の日だけ立つ市だ。主に農家の女性たちが自家製の漬物や採ってきた山菜などを売る。客とは顔なじみ。何百年も土地に根付いてきたそんな風景の中に入り込み、会話に耳を傾ける。

著者に会いたい

「何年も行くうち、顔を覚えてくれ、しゃべってくれる。言葉はほとんど、わからないんですけどね」

旅が好きでサラリーマン時代、雑誌で朝市を知り、出かけてみた。以来、冬の休みには寝台特急で北へ。会社を辞めて写真家になってからは全国を巡るが、原点は東北だ。

「最初はびっくりしましたよ。普通の道路上で、すごい雪の中にテントみたいな雪囲いがあり、おばさんが頬かむりして座っている」。だいたい70～80歳以上だが、みな元気。見たこともない食べ物については教えてくれる。物を売り買いするだけの場ではなく、近況を知り、情報を交換するコミュニケーションの交差路でもあるのだ。岩手県の久慈では震災直後の13日にも開いたという。

「仕入れて売るのではないから、流通が止まっても大丈夫」らしい。

寝台特急が消えていくように、市日も将来は危うい。というより現在これだけ残っているのが奇跡のようだ。福島県や山形県では昭和初期に途絶えたという。「消さずに残してきた地域の人たちと、地道に伝えていければ」と語る。巻末に、消えた市日も含め56カ所の場所と開催日、起源を調べた表を載せた。行き方や周辺の温泉情報などもあり、自分の足で稼いだ珍しい旅ガイドになっている。（こぶし書房・1944円）

文・大上朝美
写真・麻生健

読書

御注文をお待ちしております！　四六判上製 186 頁　定価（本体 1,800円＋税）

こぶし書房　東京都文京区本駒込 3-4-1-101
http://www.kobushi-shobo.co.jp　電話 03-3823-0524　FAX 03-3823-0527

注文書

書店名

池田進一 著　こぶし書房

東北朝市紀行

ISBN978-4-87559-296-9　C0095　¥1800E

注文冊数　冊

定価 1944円（本体1800円＋税）

ご担当者名